

事業活動

平成29年度「加工食品卸売統計」調査票

一般社団法人 日本加工食品卸協会

単位＝百万円・％

	29年1月～12月	前年比	28年1月～12月
総卸売上高	10,735,041 (100.0%)	102.5%	10,478,439 (100.0%)
品群別 卸売上高			
常 温 品	4,113,485 (38.3%)	102.0%	4,034,585 (38.5%)
酒 類	2,545,039 (23.7%)	101.4%	2,509,710 (24.0%)
菓 子 類	471,660 (4.4%)	103.4%	456,269 (4.4%)
冷 凍 品	1,414,220 (13.2%)	106.1%	1,333,261 (12.7%)
冷 蔵 品	1,674,260 (15.6%)	103.7%	1,615,263 (15.4%)
そ の 他	516,379 (4.8%)	97.5%	529,351 (5.1%)
業態別 卸売上高			
卸 売	1,794,696 (16.7%)	99.7%	1,799,349 (17.2%)
直 販	8,597,687 (80.1%)	103.3%	8,331,036 (79.5%)
メーカー・他	342,658 (3.2%)	97.8%	348,054 (3.3%)

※ ()内の数字は構成比

◆ 会員卸企業数 100社

◆ 統計調査参加企業数 46社

[参加企業内訳]

2018/04/01

[北海道支部] 5企業
・岩田醸造(株) ・日本アクセス北海道(株) ・(株)スハラ ・国分北海道(株) ・(株)ホッカン

[東北支部] 4企業
・(株)山形丸魚 ・国分東北(株) ・佐藤(株) ・丸大堀内(株)

[関東支部] 13企業
・三菱食品(株) ・三井食品(株) ・日本酒類販売(株) ・(株)日本アクセス ・国分グループ本社(株)
・国分首都圏(株) ・(株)サンヨー堂 ・常陽水産(株) ・国分関信越(株) ・国分フードクリエイト(株)
・コンタツ(株) ・ユアサ フナシヨク(株) ・(株)大昌貿易行

[東海支部] 5企業
・(株)トーカン ・(株)昭和 ・国分中部(株) ・西山商事(株) ・(株)名給

[北陸支部] 5企業
・カナカン(株) ・北陸中央食品(株) ・石川中央食品(株) (株)田中与商店(株) ・マルコク(株)

[近畿支部] 6企業
・加藤産業(株) ・伊藤忠食品(株) ・ヤタニ酒販(株) ・ケイ低温フーズ(株) ・三陽物産(株) ・国分西日本(株)

[中・四国支部] 3企業
・藤徳物産(株) ・中村角(株) ・旭食品(株)

[九州・沖縄支部] 5企業
・コゲツ産業(株) ・ヤマエ久野(株) ・国分九州(株) ・(株)竹之下 ・九州加藤(株)

※ 国分グループ本社(株)、伊藤忠食品(株)、加藤産業(株)の売上高は、連結売上高としております。理由としては各社のグループ卸の統合再編により、今年以降も含めて連結数値の売上高の方が、より客観性があると判断したことによります。

日本介護食品協議会普及委員会との検討会開催

— 4月24日 —

執行運営委員会は、4月24日(火)に定例会を開催。冒頭日本介護食品協議会普及委員会と高齢化社会に関する課題と国の方針、UDF(介護食や、やわらか食とも言われる)の規格や市場動向、販売チャネルの現状などについて意見交換を行った。また課題となっている食品スーパーマーケットを含めた「食品売り場」での展開についてどのようなご理解とどのような働きかけを行うべきかについて具体的対応策を検討した。

以下に当日の資料を掲載する。

ユニバーサルデザインフード
7月11日はUDFの日

**日本介護食品協議会
及び
ユニバーサルデザインフードについて**

ユニバーサルデザインフード
7月11日はUDFの日


ユニバーサルデザインフード

7月11日は、2003(平成15)年に
ユニバーサルデザインフード(UDF)の名称と
ロゴマークが商標登録を受けた日です。


食べる楽しみをすべての人に

2018年4月24日(火)
於：日本加工食品卸協会
日本介護食品協議会・普及委員会
UDF売り場増加WG

アサヒグループ食品(株)
(株)明治
日清オイリオ(株)
マルハニチロ(株)
山崎製パン(株)
日本介護食品協議会



2,000種類



4

日本介護食品協議会とは

- 2002年4月設立
- 加盟企業76社（2018年3月現在）
食品メーカーを中心に、原材料メーカー、容器メーカーなどが加入

協議会は「団体」です！
製品の製造・販売を行っている
ところではありません。

【主な活動】

- ◆ 介護食品 = ユニバーサルデザインフードの普及
介護者・被介護者を問わず市販介護食品の認知度向上を図る
- ◆ 介護食品 = ユニバーサルデザインフードの自主規格の策定と運用
一般の利用者により分かりやすく安全・安心な介護食品を提供するための統一規格・基準の整備

【設立の動機】

家庭用介護食商品増加するも、企業単位では規格・表示等がマチマチ

→利用者の商品選択上、不便

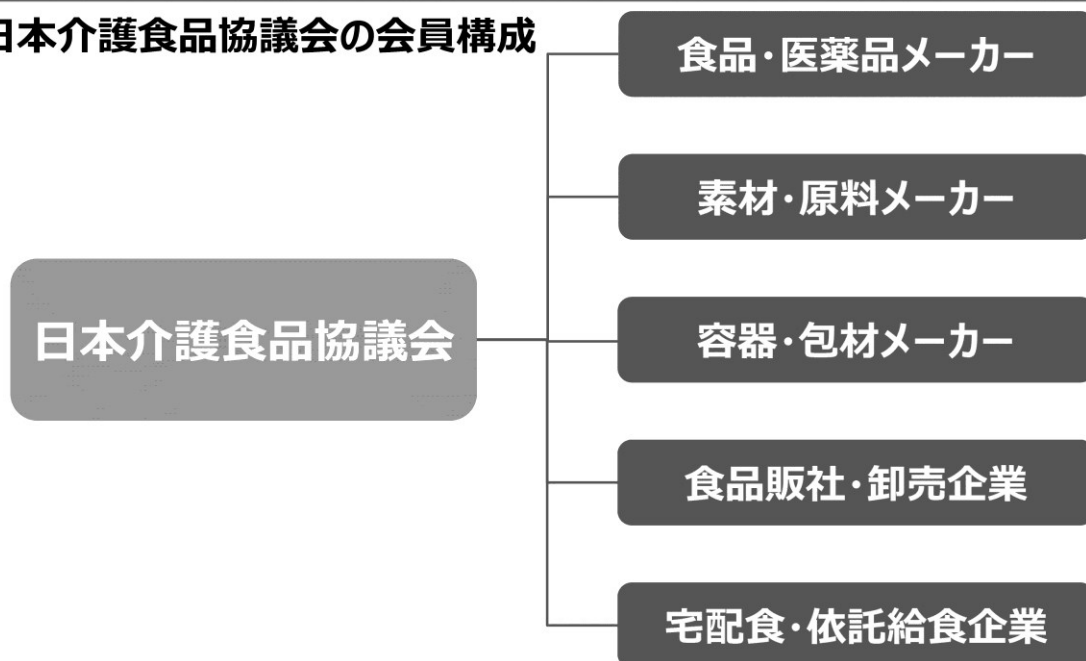
「協議会」の設立

利用者や指導的立場の方々が円滑、かつ安心して使用できる仕組みの構築

→利用者の選択に資する「介護加工食品群」の啓発

5

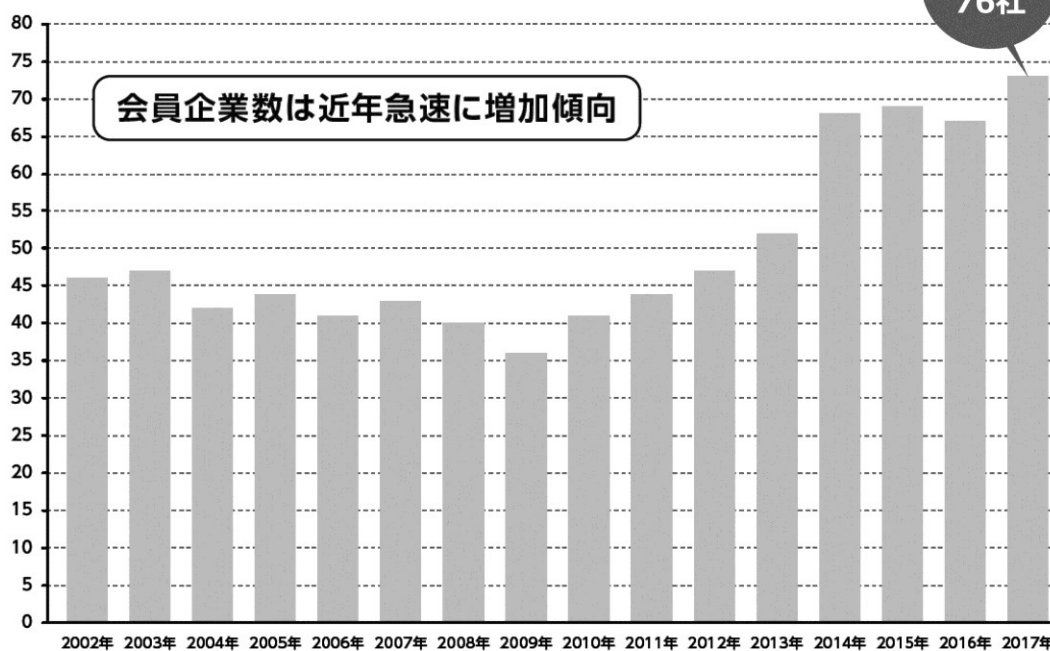
日本介護食品協議会の会員構成



食品メーカーだけでなく、原料素材、容器包材、販社なども加盟
(ダイバーシティな業界団体)

6

会員企業数



7

■協議会が考える「介護食品」とは？

特定の病者向けの食品ではなく、幅広い方々を対象
ネーミングについての心理的抵抗

命名：ユニバーサルデザインフード

- ◆幅広く、食べやすさに配慮した食品
- ◆「かたさ」や「粘度」に応じて、4段階の区分に分類した食品
- ◆飲み物や食事を食べやすいように調節できる「とろみ調整」食品

【対象】

「かむ力」や「飲み込む力」が弱まった高齢者や
歯の治療などで一時的に食事が不自由な一般の方など

8

■ユニバーサルデザインフード区分表

—日本介護食品協議会の具体的な活動成果の一例—

区分3
舌で
つぶせる
→
舌で
つぶせる
これまでの表示
これからの表示

区 分	 容易に かめる	 歯ぐきで つぶせる	 舌で つぶせる	 かまなくて よい
かむ力の目安	かたいものや大きいものは やや食べづらい	かたいものや大きいものは 食べづらい	細かくてやわらかければ 食べられる	固形物は小さくても 食べづらい
飲み込む力の目安	普通に飲み込める	ものによっては 飲み込みづらいことがある	水やお茶が 飲み込みづらいことがある	水やお茶が 飲み込みづらい
かたさの 目安	ごはん	ごはん～やわらかごはん	やわらかごはん～全がゆ	全がゆ
	たまご	厚焼き卵	だし巻き卵	スクランブルエッグ
	肉じゃが	やわらか肉じゃが	具材小さめやわらか肉じゃが	具材小さめさらにやわらか肉じゃが
	調理例 (ごはん)			
物性 規格	かたさ上限値 N/m ²	5×10 ⁵	5×10 ⁴	ソル:1×10 ⁴ ゲル:2×10 ⁴
	粘度下限値 mPa・s			ソル:1500 ゲル:5×10 ³

※「ソル」とは、液体、もしくは固形物が液体中に分散しており、流動性を有する状態をいう。「ゲル」とは、ソルが流動性を失いゼリー状に固まった状態をいう。

9

「ユニバーサルデザインフード」のとろみ調整食品

とろみ調整食品とは

食べ物や飲み物に加えただけで、適度なとろみを簡単に付けることができる粉末状の食品です。また、ゼリー状にかためることができるタイプのものもあります。

とろみをつけることで、飲み物や食品が口の中でまとまりやすくなり、ゆっくりとどへ流れます。



とろみ調整食品の上手な使い方

- 冷たくても温かくても温度に関係なく、飲み物にとろみをつけることができます。
(飲み物の温度や種類、量によってとろみのつき方が異なる場合があります)
- ばさつくものや小さく切ったものに、とろみ調整食品で“あん”やソースを作っかけて
るとお食事にまとまり感をだすことができます。

※詳しい使い方は、各商品パッケージをご覧ください。

※むせるなど、食べ物や飲み物が飲み込みにくい方は、医療機関の専門家に相談ください。



とろみをつけたお茶



白身魚の和風あんかけ

10

協議会とUDFの概要

■統一された表現を用いる

- ◆各社とろみ調整食品のとろみ状態や、モデルとなる食品について、「粘度」、「堅さ」、「凝集性」などを計測し、各社商品のとろみ具合との比較を行った。
- ◆結果、下記の結論を得たので、これをもとに運用細則をまとめ、自主規格化を目標にガイドラインを作成。各社商品での運用を開始している。

【とろみの目安の表示例】

とろみの強さ	++ ++	+++ ++	++++ ++	++++ ++	
とろみのイメージ	フレンチ ドレッシング状	とんかつ ソース状	ケチャップ状	マヨネーズ状	
イメージ図					
使用量の目安	← 1g →		← 2g →		← 3g →

水・お茶100mlあたり

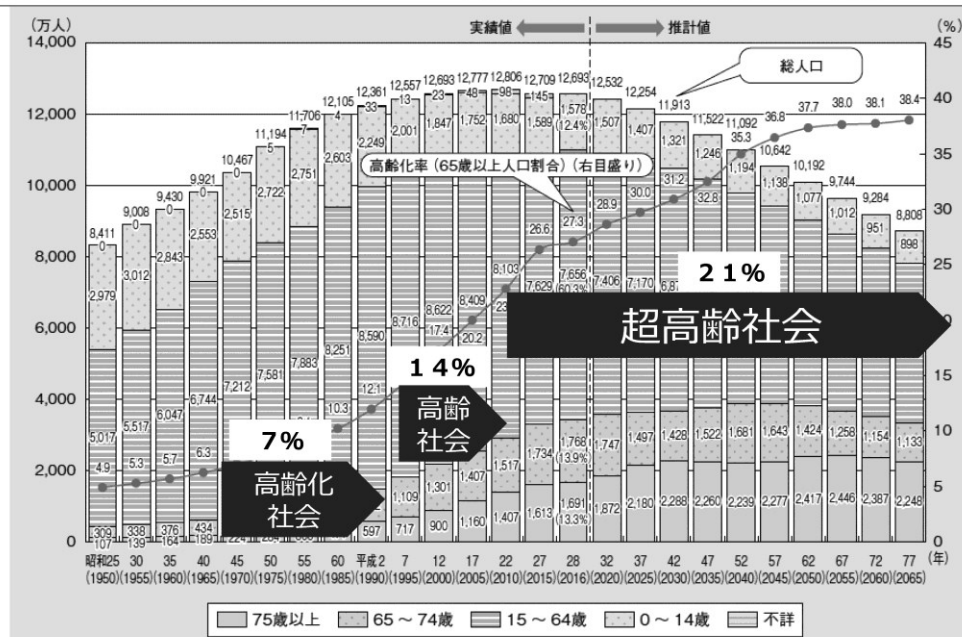
◆表示例。この表記方法を基本に各社で統一した表示をおこなっている

11



日本の高齢化の現状

進む少子高齢化→超高齢社会の到来。
2016年の65歳以上のシニアは約3,460万人
団塊の世代が後期高齢者になる2025年から急激に後期高齢者が増加する。





安心して食べられるUDFで低栄養予防

◆口から食べられる意義（食べることの重要性）

介護食品に求められる特性

～食べる人と食べ物、食べさせる人、食事の場とが
触れ合うことにより、五感を通して脳に刺激を与え、
生きる喜びと楽しみ、人間としての尊厳を保ち、Q O Lを高める～

◆介護食の条件

- ・ 口腔から咽頭部を滑らかに通り、むせずに、粘りつかないで嚥下できるのど越しのよい食べもの
- ・ 見た目もきれいで食欲がわき、おいしいもの
- ・ エネルギー、栄養素、水分が必要量取れる

食べる力が弱くなり食べる量や意欲が低下した要介護高齢者でも、食べやすさに配慮したUDFを使用することで、美味しく且つ安全に食事でき低栄養予防に繋がる

低栄養とフレイル（虚弱）

■ 低栄養とは

エネルギーとたんぱく質が欠乏した状態、健康な体を維持し活動するのに必要な栄養素が足りない状態

■ 高齢者のフレイル（虚弱）

- ・体重の減少
- ・疲れやすさ
- ・歩く速さ
- ・筋力の低下など

→要介護状態になる可能性高い

■ 負の連鎖

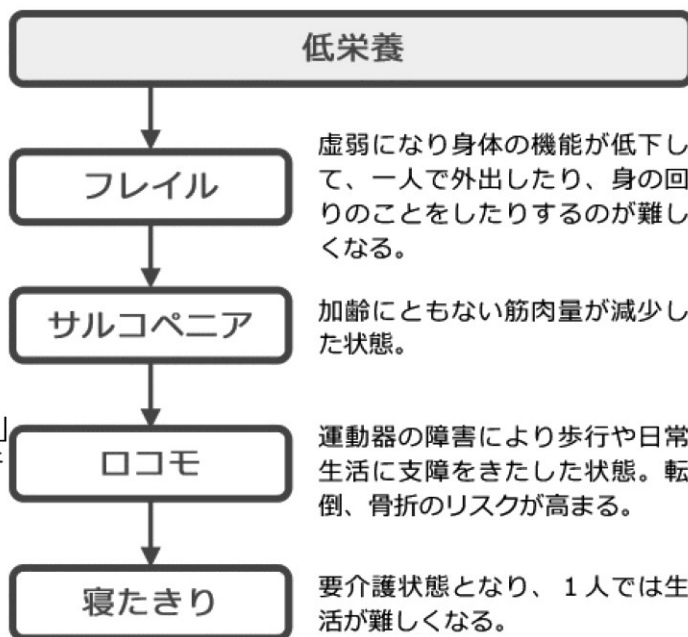
「サルコペニア」→筋肉量の低下

「ロコモティブシンドローム（ロコモ）」

→骨や関節、筋肉の障害により歩行や日常生活に支障をきたす

「寝たきり」へ

●「低栄養」がこれらの原因の一つ



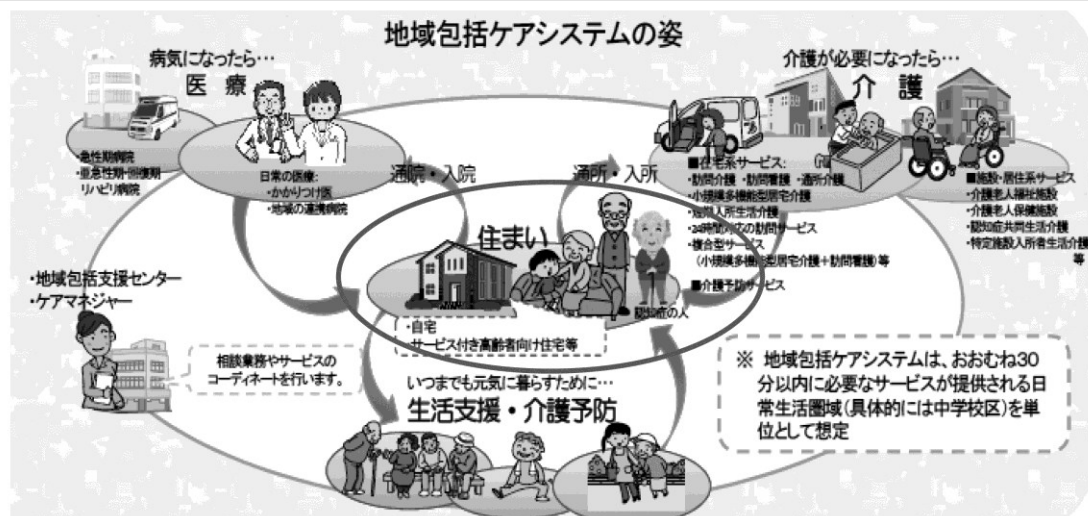
(株)明治ホームページより

17

在宅医療介護機能の将来（厚生労働省）

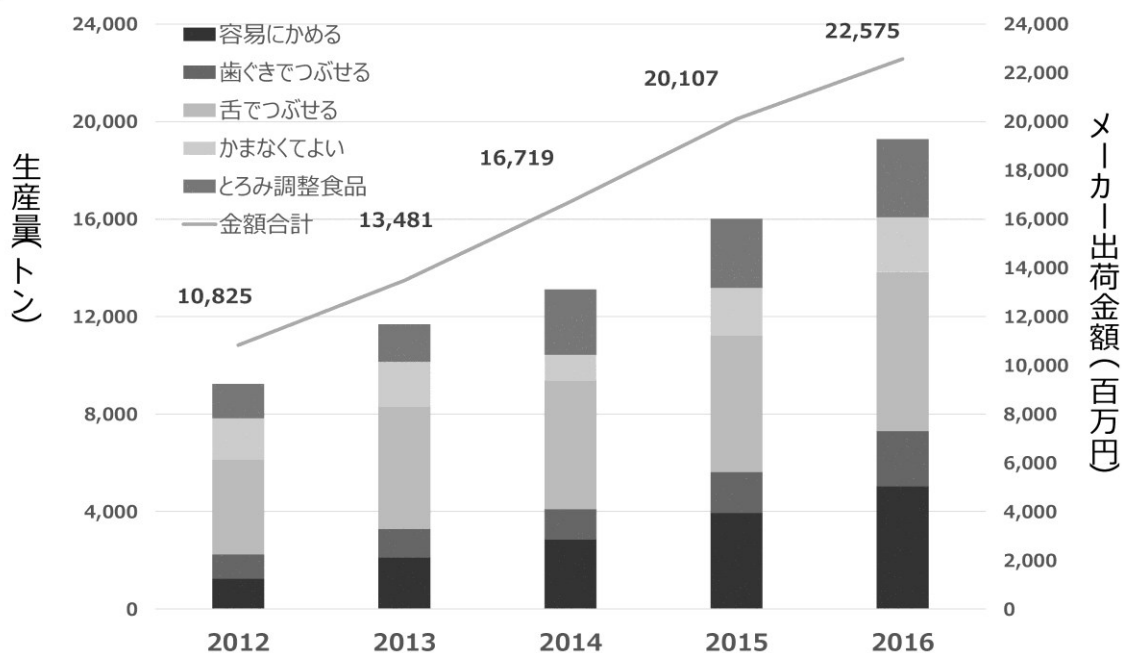
■ 厚労省は地域包括ケアシステムを構築（2025年を目処に）

■ 病院・施設から住み慣れた在宅へ推進していく



- ・保健制度外の介護予防を含めたセルフメディケーションの拡大
- ・軽介護度高齢者に対する民間による生活支援の拡大

- 出荷量：19,285トン 出荷金額：22,575百万円（2016年度）
- 出荷量及び出荷金額ともに、対2015年で110%以上伸長



介護食品売り場の様子

・ドラッグストア



・GMS



・スーパーマーケット



UDFの認知状況

ユニバーサルデザインワード
7月11日はUDFの日

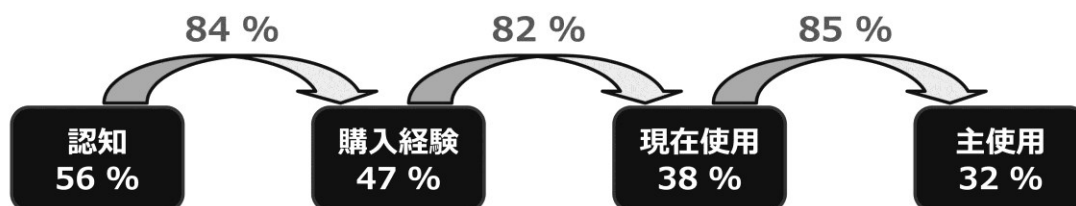


介護食品協議会独自調査（2017年5月）

◆UDFの認知状況の比較

		■知っている	■聞いたことはある	■知らなかった
全体	1,021名	15.2%	17.9%	67.0%
介護食 ユーザー	407名	32.2%	23.4%	44.4%
介護食 ノンユーザー	614名	3.9%	14.2%	81.9%

◆介護食ユーザー：UDFを継続使用に至る割合（ファンネル分析）



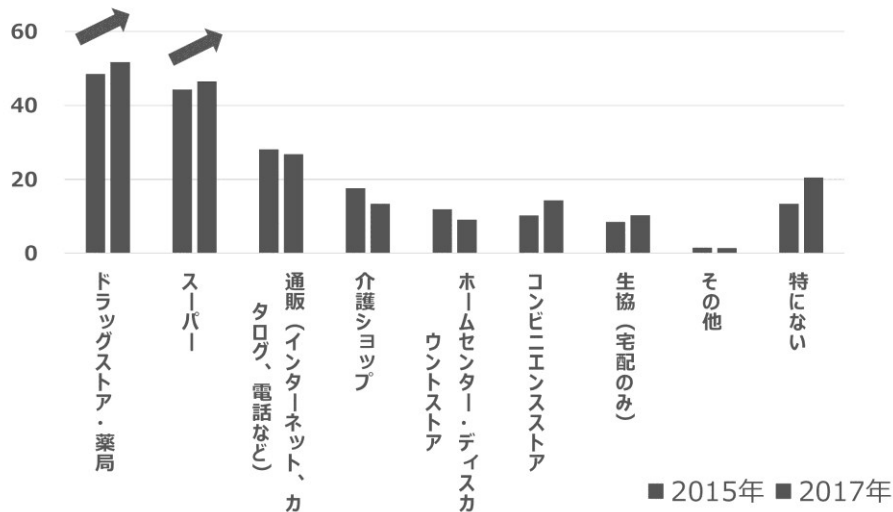
- 介護食ユーザーではUDF認知度が50%以上
- UDF認知から主使用までの移行割合は80%以上
- 認知向上及び購入経験（トライアル）を高めることで継続利用に繋がる

UDFの購入希望チャネル

ユニバーサルデザインワード
7月11日はUDFの日



- 介護食の購入に利用されるDRUG*と一般食品の購入に利用されるSM*の利用希望が高い
*別添の参考資料に記載
- 2017年でDRUGとSMの利用希望率がより高まっている



介護食品協議会独自調査（2017年5月）

■ 課題と今後の取り組み案

① 介護食ノンユーザーにおける認知率が低い

⇒ユーザーを増加させるには「見える」場所での展開が不可欠

② 消費者が購入を望むチャネルで、商品の取扱い数や取扱い店舗数がまだまだ少ない

⇒食品メーカーとしては、現状なかなか伸びていない
小規模店舗（食品スーパー）も含めた「食品売り場」
での展開により、商品のトライアルに繋げ、リピートを増やしていきたい。

【本日の目的】

- ・卸企業・食品メーカーの各視点から課題を共有
- ・卸企業のご助力を得ながら食品メーカーとして
取り組むべき対策の創出

27

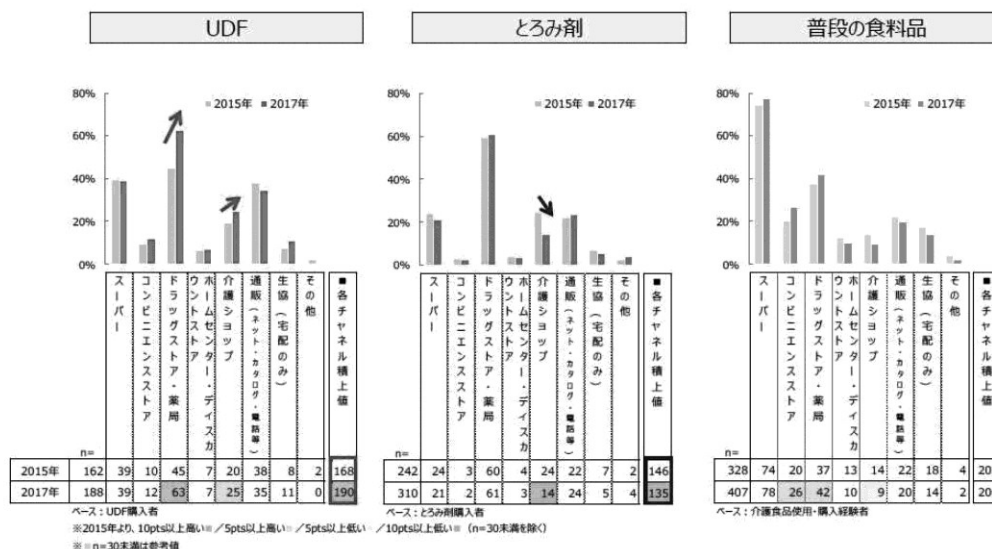
参考資料



普段の利用するチャネルは？

- ✓ UDFは15年に比べ、各チャネル積上値（各利用チャネル計）が上昇。特にドラッグストアで伸び、介護ショップも上昇。
- ✓ 一方、とろみ剤の各チャネル積上値は低下し、特に介護ショップで低下。

時系列データ
17年度データ



28

第26回 賛助会員幹事店会開催

— 5月15日 —



挨拶をする政策委員長
山本泰生氏

第26回賛助会員幹事店会を5月15日(火)午前11時45分より日本橋三越本店特別食堂にて開催した。

当日は冒頭弊協会の政策委員長である山本泰生氏(三菱食品(株))が開会の挨拶を行い、次いで賛助会員幹事店を代表して、竹内秀樹氏(味の素(株))からご挨拶をいただいた。続いて奥山専務理事が3月に行われた理事会の概要を報告。今回は、特にメーカー各位から発言をいただく意見交換テーマはもうけず、日食協が取り組んでいる「消費税軽減税率対応企業間取引の対応」についての詳細について情報を共有

した。また平成29年度農林水産省の補正予算の公募事業である、食品等物流効率化導入支援事業の「トラック入荷受付・予約システム」について説明し、センター入荷時のトラックドライバーの待機時間の軽減策を目指す考えを示した。



挨拶をする
味の素(株) 竹内秀樹氏



賛助会員幹事店会会場

各県ブロック動向

◆中部食料品問屋連盟

中部食料品問屋連盟は、6月18日(月)第69期定時総会を名古屋観光ホテルで開催。朝方に発生した大阪北部地震の影響が懸念されたが正会員・賛助会員合わせて284名が出席した。総会開催にあたり永津邦彦((株)トーカン)会長が挨拶を行い「来年10月の消費税率の増税では食品などを対象に軽減税率が導入され、食品業界として対応に迫られる。システムの改修な